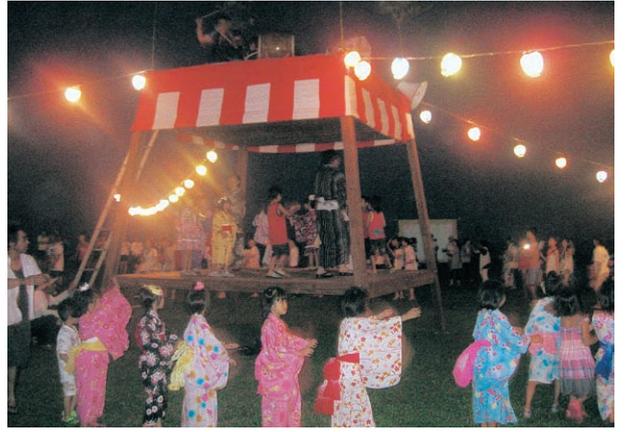




▲にぎわう夜店



▲和やかな盆踊り

地域の話題

赤羽根校区

「祭り」ではぐくむ郷土愛

雄大な太平洋に面し、赤羽根漁港や道の駅あかばねロコステーションのある赤羽根校区。今年から始まった「赤羽根夏祭」について、校区総代さんからお便りが届きました。

地域発!

私

たちの赤羽根校区では、平成19年3月に策定した校区まちづくり推進計画に基づき、地域活性化のためのさまざまな取り組みを行っています。今回、ふれあいのあるまちづくり事業の一つとして、「赤羽根夏祭」を開催しました。

海辺で楽しむ 夏の宵

梅雨が明け、夏祭りに絶好の天気にも恵まれた7月17日（土）夜、赤羽根ロコパーク（赤羽根西海岸）と道の駅あかばねロコステーションで開催した「赤羽根夏祭」には、約5000人が訪れました。この祭りは、地域の交流、校区コミュニティ意識の高揚と地域の人材育成を目的

に、今年から始めたもので、盆踊り大会を中心に、太鼓、ライブ、夜店、ライブペインティング、おたのしみ抽選会、BMXショー、手筒花火などを催しました。

道の駅あかばねロコステーション前では、商工会などによる夜店が開かれ、ゲームやジャンケン対決にたくさん子どもたちが集まりました。また、うどんやだんご、焼き鳥などのお店の前にも、長い行列ができました。

盆踊りを行った広場の中央には、立派なやぐらを建て、その周りには幾重にも人の輪ができました。浴衣姿の人も多く、みんな楽しそうに踊って、大いに盛り上がりました。



▲盛り上がった手筒花火

祭りの最後には、手筒花火を揚げ、大きな音に降り注ぐ火の粉、そして最後に響く爆音に、観衆からひととき大きな歓声が上がりました。
ふるさと祭りの意義

この「赤羽根夏祭」は、赤羽根校区コミュニティ協議会、田原市商工会、田原市サーフィン協会など地域の諸団体が一体となって開催したものです。すそ野の広い、手づくりの祭りとして成功したと思います。

地域の人々の連帯感や、幼い子どもたちの郷土愛を深めるためにも、こうした「ふるさと祭り」の持つ意義は大きいと考えています。